

**付録1**：「オープン版」「簡易版」について～「クローズ版」との違い～

◆「オープン版」「簡易版」は“Zoom ウェビナー機能”を利用する。

Zoom ビデオウェビナー機能（以下、ウェビナー機能）とは、「ウェブセミナー（一般講演会）」を開催する際に使いやすいようにカスタマイズされた機能です。「研究者同士で議論を行う」というより「講演者の講演を参加者が聞く」という会議形態に使いやすい仕様になっています。「オープン版」「簡易版」ではこれを利用します。

ウェビナー機能では、参加者を「パネリスト」と「視聴者」に分け、視聴者はアイコンの表示やマイクの自由な使用が制限されるなど、視聴者の権限を代表者側で強くコントロールできます。

さらに、Zoom の「事前登録」機能の活用で、必要な参加者情報が予め入手できるため、無関係の部外者がオンラインで妨害行為を行う可能性を限りなく低くすることが可能です。

これらにより、妨害行為の防止がある程度担保され、「ハイブリッド共同研究の URL」をウェブ上に掲載し広く参加者を募ることや、当日飛び入り随時参加も可能になります。

このように、通常開催の「RIMS 共同研究（公開型）」のような開かれた開催が可能になるのが「オープン版」です。

（主に「RIMS 共同研究（公開型）」での利用を想定していますが、「グループ型」での活用も可能です。）

「簡易版」もこのウェビナー機能を利用します。「簡易版」の詳細は次の項目で説明します。

◆「簡易版」は、質疑応答を廃し、講演映像の一方向的な配信制にすることで、Zoomの知識がなくてもハイブリッド型が開催できる。

「簡易版」ではZoomが「配信専用」となり、Zoomでの特別な操作をすることなく、ハイブリッド型共同研究が開催できます。

（「Zoomオペレーター」は必要ありません。）

よって、手引き4ページに記載の以下の業務が不要となります。

<Zoomオペレーターの仕事>←これが不要となる。

- \*「オンライン参加者の入退室管理」（随時）※待機室が有効な場合のみ
- \*「オンライン参加者の質疑応答時の挙手確認、音声ミュート解除対応」（質疑応答時）
- \*「後カメラと前カメラの映像切り替え操作」（現地／オンライン講演の切り替え時）
- \*「共同ホストの指定を変更する」（オンライン講演の前後）

オンライン参加者は質疑応答ができないというデメリットはありますが、代表者は、通常開催とほぼ同様の負担でハイブリッド型を進めることができます。

※通常開催時から増える作業は、基本的に以下2つのみです。

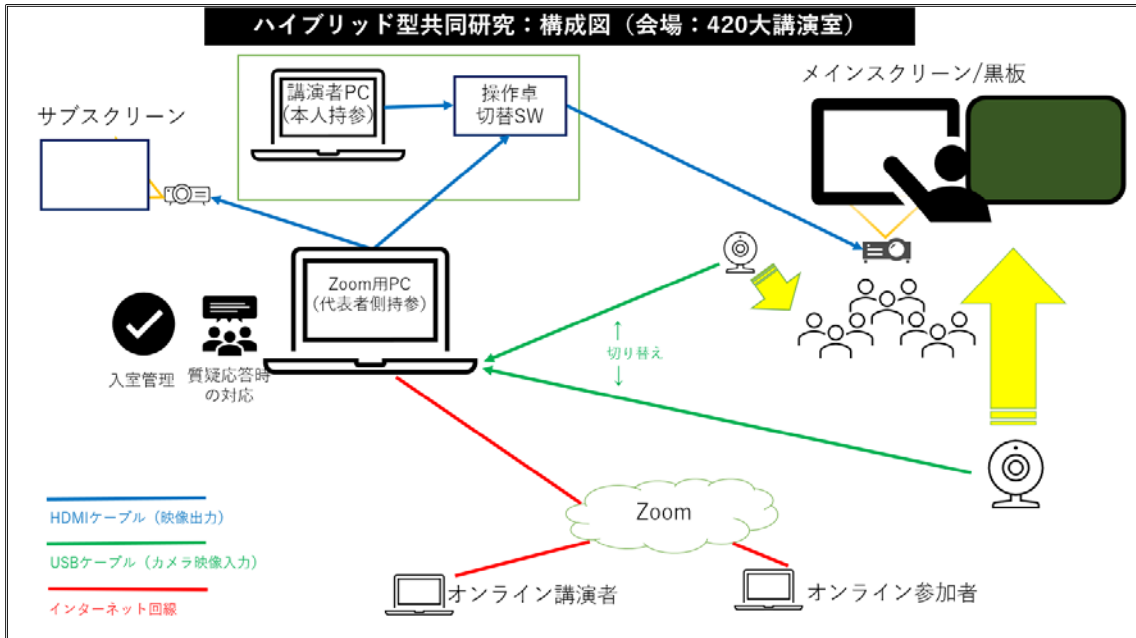
- ・オンライン講演時に「Zoomに映像を切り替える」（操作卓のボタンを押す）
- ・現地講演時にカメラコントローラーがカメラの操作を行う。

（「RIMS共同研究（公開型、グループ型）」双方での利用が可能です。）

簡易版の構成図は、次のページの付録2をご参照ください。

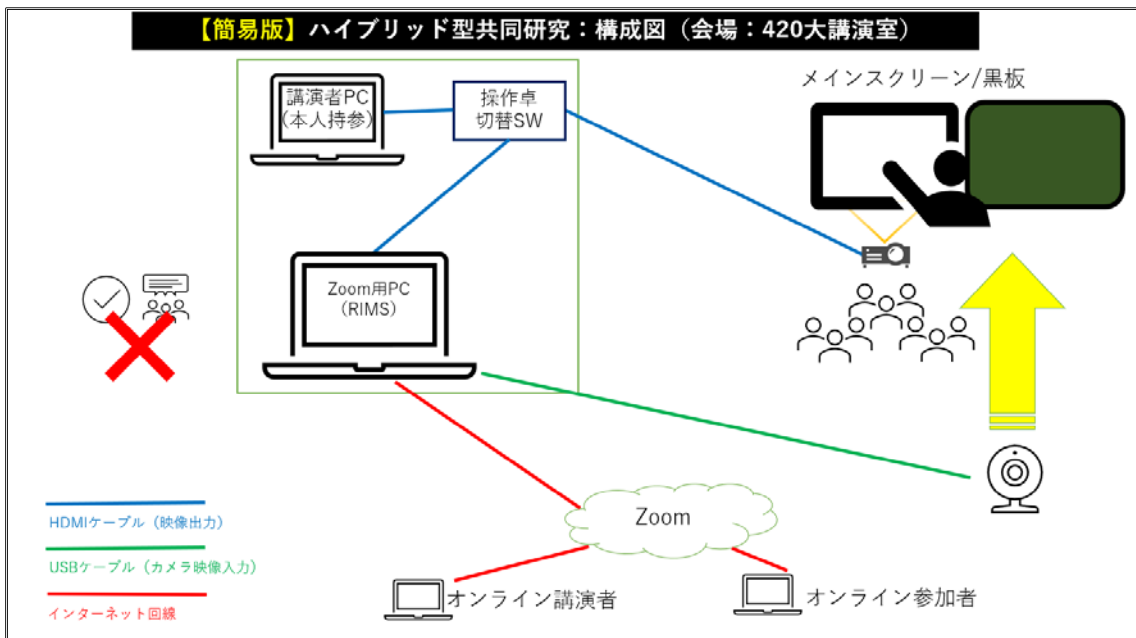
付録2：「クローズ版・オープン版」と「簡易版」の構成の違い

\*クローズ版・オープン版



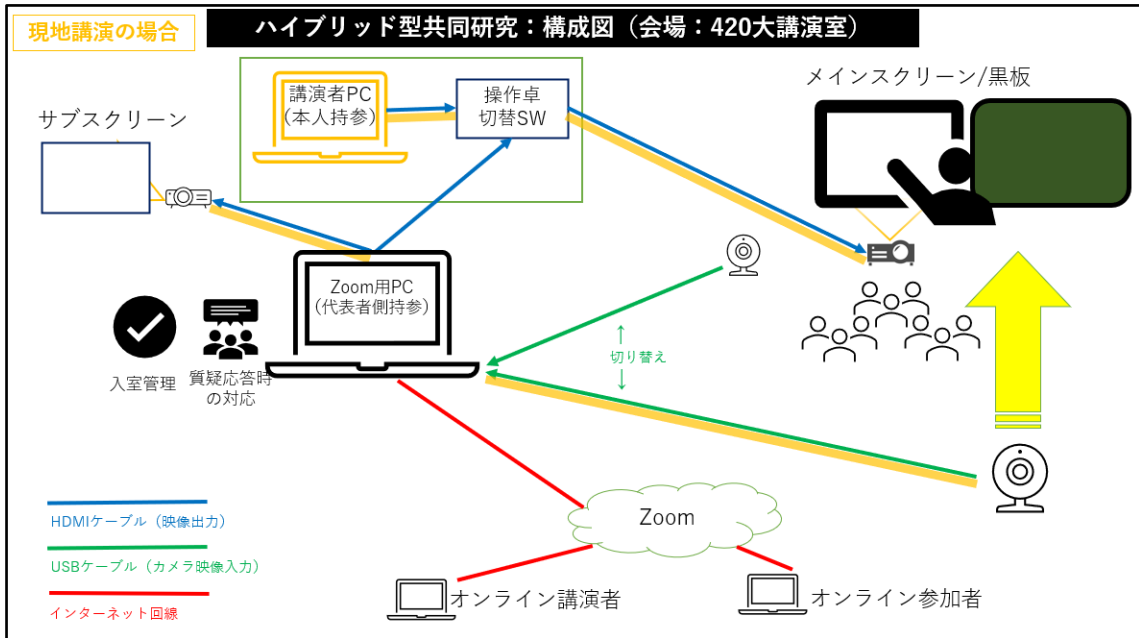
\*簡易版

(Zoom ウェビナー利用、待機室なし、質疑応答なし (Zoom コントローラー不要))



### 付録3：「現地講演」と「オンライン講演」の映像配信の流れ方

#### \* 現地講演の時



#### \* オンライン講演の時

